

シラバス

指定番号

商号又は名称:公益社団法人 大阪市ひとり親家庭福祉連合会

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ② 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障がいの違いについて列挙できる。 ③ 認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を説明できる。 ④ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。 ⑤ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について説明できる。 ⑥ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について理解できている。 ⑦ 認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントを理解して、具体的な関わり方(良い関わり方、)を実践できる。 ⑧ 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	1		(1) 認知症ケアの理念 ・ 認知症介護の基本原則・最新の認知症ケア
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		(1) 認知症の基礎理解 ・ 認知症とはなにか・もの忘れと認知症の違い・認知症の初期症状・認知症の診察と診断 (2) 認知症の原因疾患 ・ 認知症の種類と原因・アルツハイマー型認知症・血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症他 (3) 中核症状と行動・心理状態 ・ 中核症状・行動、心理状態・薬物療法
③ 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2	2		(1) 認知症に伴うこととからだの変化 ・ 行動、心理症状の具体的対応 (2) 認知症の人の対応 ・ 日常生活支援の基本的対応・環境整備と基本的対応・心理学的援助方法論 演習実施 演習手法: 授業で学んだ「認知症の人の対応」について、班ごとにグループ討議を行う。
④ 家族への支援	1	1		(1) 認知症家族介護者の現状の理解 (2) 認知症を持つ人の声、家族の声
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。